

# 雇用創出に一役

## 登米市 ファーム宮田

### 黒ニンニク 栽培から加工まで

【登米市】圃場整備工事や暗渠排水工事を請け負い、農地活用にも取り組むのは、登米市米山町の「ファーム宮田（佐藤安憲代表取締役・61歳）」。建設会社の農業生産部門として2019年に設立され、黒ニンニクを生産する。佐藤社長は「栽培品目をさらに増やして雇用を生み、地域に貢献していきたい」と意気込む。

### 次の計画は温室で南国果実

「ニンニクはさまざまな薬効が証明されていて、その成分が凝縮された黒ニンニクは、コロナに負けない免疫力が期待できる」と佐藤社長。登米市の農業法人「鈴根ファーム」の指導を仰ぎながら栽培から加工までを行っている。

10月下旬から11月上旬にかけて、圃場10アに青森県産「ホワイト六片」の種球250kgを定植。6月に約1ア収穫し、通年で加工ができるようマイナス2度の冷凍庫で貯蔵する。

加工は、ステンレスのざると竹炭と電気釜を使い、生ニンニクを入れて約2週間、保温状態にする。「竹炭に余分な水分を吸わせて熟成させるオリシナル製法」と佐藤社長。熟成すると糖度が上がり生ニンニク特有の刺激臭が消えて、フルーツのような風味に変わるという。

同市豊里町の三浦吉記氏

ファーム宮田のみなさん（後列左が佐藤社長）



ん(67)は「1粒食べると体の芯からぽかぽかしてくる。臭いもなく食べやすい」と効果を実感しリピートする。

黒ニンニクの栽培・加工は、ファーム宮田設立以前から取り組んでいて、2016年には「黒い宝石箱」で商標登録している。佐藤社長がデザインした化粧箱は写真IIに入れて販売し、贈答品として好評を得ている。

「パイナップルやマンゴーなどに取り組み、南国フルーツで地域の直売所をいっぱいにしたい」と佐藤社長は話し、さらに「栽培で雇用が生まれ、地域に貢献できる会社として、経済を循環させたい」と夢を膨らませる。

▽ファーム宮田（宮田建設株内）☎02220（55）2001  
（浅野ゆい）